

平成26年度 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果（確定値）の概要

1 目的

- 1 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況及び、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- 2 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- 3 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- 4 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

2 実施日 平成26年7月3日(木)

3 対象学年 都内公立小学校 第5学年 都内公立中学校及び中等教育学校 第2学年

4 調査内容

(1)	児童・生徒の学力向上を図るための調査	
	【小学校】4教科:国語・社会・算数・理科 【中学校】5教科:国語・社会・数学・理科・外国語(英語)	
	A 「学習指導要領に示されている教科の目標及び内容」の実現状況に関する内容	
	B 「読み解く力」の定着状況に関する内容	
	【取り出す力】文章や図表、グラフ等を手がかりに、問題を解くのに必要な情報を正確に取り出す力	
	【読み取る力】取り出したいくつかの情報を比べたり、関連付けたりして、問題の内容を読み取る力	
	【解決する力】読み取った内容と、自分の知識や経験とを照らし合わせて、意図や背景、理由を考えて解決する力	
	※A・Bは説明上、事務局が追記した表現。	
(2)	児童・生徒質問紙調査	児童・生徒の生活や学習に関する意識や実態に関する調査
	学校質問紙調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

5 調査結果

東京都・武蔵野市 : 東京都の示す最終結果より引用。

【平均正答率 %】

	小学校 第5学年								中学校 第2学年							
	武蔵野市				東京都				武蔵野市				東京都			
	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計
国語	82.9 (+5.5)	59.0 (+6.0)	[23.9]	79.6 (+5.2)	77.4	53.0	[24.4]	74.4	69.5 (+7.9)	56.9 (+7.6)	[12.6]	67.7 (+7.6)	61.6	49.3	[12.3]	60.1
社会	79.9 (+5.0)	59.9 (+6.7)	[20.0]	75.2 (+4.7)	74.7	53.2	[21.5]	70.5	66.1 (+7.4)	54.0 (+8.8)	[12.1]	63.7 (+6.0)	58.7	45.2	[13.5]	57.7
数学 算数	71.3 (+6.7)	58.4 (+8.5)	[12.9]	68.7 (+6.7)	64.6	49.9	[14.7]	62.0	66.3 (+10.0)	51.4 (+10.2)	[14.9]	63.2 (+9.4)	56.3	41.2	[15.1]	53.8
理科	72.4 (+4.7)	64.3 (+6.9)	[8.1]	70.6 (+5.0)	67.7	57.4	[10.3]	65.6	58.5 (+5.6)	48.8 (+5.7)	[9.7]	56.4 (+4.2)	52.9	43.1	[9.8]	52.2
英語									71.1 (+10.2)	39.2 (+14.0)	[31.9]	64.5 (+9.8)	60.9	25.2	[35.7]	54.7

※武蔵野市の結果の下段()は、「都との差」。「都との差」及び「ABの差」については、事務局で追記した数値。

6 本市の状況の分析

- すべての教科、項目で東京都の平均を上回っており、基礎・基本の定着が図られ、活用できているといえる。
- AとBの差は、中学校国語では東京都より大きくなったが、それ以外の教科では小学校・中学校ともに東京都と比べて小さいことから、おおむね「学習指導要領に示されている教科」の基礎・基本の事項を、「取り出し」、「読み取り」、「解決する」力も身に付いているといえる。
- ▲ 今後は、さらにB「読み解く力」について、各校の授業改善を通じて向上を図っていく。